【サイダイコンシェルジュ】
SU SAITAMA UNIVERSITY
知と技と社会の明日をつなぐ大学情報誌
SU News Letter
1949 – 2029 埼玉大学
埼玉大学は2029年に創立80周年を迎えます
Vol.49 October 2026

1 学生

キャリア支援の新拠点「知るカフェ」が学内にオープン

9月30日(水)、埼玉大学図書館1階に新たに開設された「知るカフェ埼玉大学店」のオープンセレモニーが、店舗運営を担う学生スタッフの進行のもと、開催されました。会場には参画企業や報道機関、大学関係者など、多くの来場者が集まり、賑やかな式典となりました。

知るカフェは、学生が無料でドリンクを楽しみながら、企業との交流を通じて将来の進路やキャリアについて考えることができる学生限定のカフェです。

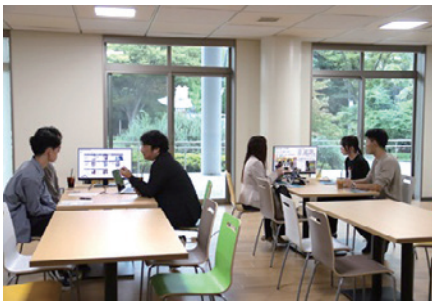
はじめに、知るカフェの運営を担う株式会社エンリッションの大谷正奈執行役員COOが主催者を代表して挨拶しました。続いて、本学の重原孝臣学長が挨拶を行いました。両者からは、今回の立ち上げに携わった関係者への謝意とともに、知るカフェが多くの人々をつなぐ場となること、学生自身のキャリアを考えることへの期待が述べられました。その後、知るカフェ埼玉大学店の店長を務める井上泰志さん(教育学部4年)が登壇し、「新しいきっかけの場にしたい」と店舗運営に向け、抱負を語りました。

また、セレモニーでは、オープニング映像の上映に続き、テープカットが行われました。さらに、企業担当者から企業や業界を学生へ説明する「Meetup」の実演も行われ、知るカフェで行われる交流の様子が披露されました。

なお、「知るカフェ埼玉大学店」はセレモニー翌日の10月1日から学生の利用を開始しています。営業時間は、授業期間中が平日12時から18時まで、休講期間中が平日13時30分から16時30分までで、土日祝日は休業(開講日は営業)となっています。

本学では、「知るカフェ埼玉大学店」を通じて、多くの学生が社会や企業との接点を広げ、主体的に将来を考える機会が生まれることを期待しています。


▲テープカットの様子


▲企業担当者とのMeetupの様子

2 ダイバーシティ

男女共同参画機構と男女共同参画の推進に向けた連携協定を締結

7月22日(水)、埼玉大学は男女共同参画機構(JGEPA)と、相互の人的・知的資源の交流と活用を図り、男女共同参画の推進に寄与することを目的とした連携協定を締結しました。また、締結式終了後には、両者による連携協議会を開催しました。

《連携協定の概要》
両者は主に以下の5つの項目について協力・連携を行います。
(1) 連携授業やセミナー等の企画・実施、講師等の相互派遣に関すること
(2) 調査研究・情報資料の収集整備に関すること
(3) 教職員の人事交流に関すること
(4) 情報の相互提供、施設等の相互利用に関すること
(5) その他両者が協議して必要と認める連携に関すること



▲左よりJGEPA 大槻奈巳理事長、埼玉大学 重原孝臣学長

2026年4月、男女共同参画に関する施策を総合的に推進するナショナルセンターとして新たにJGEPAが発足し、また、同じ4月に、埼玉大学においても日本初の「ダイバーシティ科学専攻」が新設されました。両者が新たなステージを迎えた今、強固な連携基盤を構築し、人材育成や調査研究、人事交流などの取組を推進することで埼玉の地から全国へ、そして未来へと広がる、女性活躍や男女共同参画の新たなロールモデルを構築していきます。

3 学生 学生広報サポーターが自治体や商工会議所と連携活動を実施

8月1日(土)、複合公益施設サウスピアにて、埼大学生広報サポーターとさいたま市南区が連携し、子ども向け防災イベント「めざせ!子ども防災マスター」を実施しました。本イベントは、子どもたちがひとりでいる時に災害が発生した際でも、自分の身を守る正しい行動が取れるよう、楽しみながら防災知識を学ぶことを目的として行われました。

当日は、多くの子どもたちが訪れ、学生たちがアイデアを出し合って考えた数々のミッションを通じて、いざという時に、自ら考え行動する大切さを学びました。ナビゲーターを務めた学生たちにとっても、防災時の適切な行動について理解を深める貴重な機会となりました。

8月27日(木)には、蕨商工会議所との連携事業として、埼大学生広報サポーターによる地域見学と意見交換会を行いました。学生を代表して3名が案内に沿って市内を歩きながら、蕨市の歴史や特色について学びました。地域の逸品を取り扱うセレクトショップ「WARABI SELECT SHOP」では、蕨双子織や蕨もちをはじめとする地域商品に実際に触れました。また、商店街で長く事業を営む専門店の店主の方からは、地域のつながりや商店会が抱える課題についてお話を伺いました。



▲防災イベントに参加した学生


▲蕨商工会議所の皆さん

4 国際教育 留学生らがEU代表部を訪問
― 国際関係を多角的に学ぶ特別課外講義を実施 ―

6月26日(金)、東京都港区にある駐日欧州連合(EU)代表部ヨーロッパハウスを訪問し、特別課外講義を実施しました。講義では、公務ご多忙の中、EU代表部のThomas GNOCCHI臨時代理大使が登壇され、EUの組織運営や外交、国際社会における役割、そして日本とEUの関係についてご講演いただきました。また、現在直面する課題やウクライナへの支援、昨年の大阪・関西万博における広報についてもご説明がありました。多くの学生からEUの留学・交流プログラム「Erasmus+」やEUの今後など、多岐にわたるテーマについて質問が出され、活発な質疑応答が行われました。ウクライナ出身の留学生もおり、母国への支援について直接お話を伺える、国際共修講義ならではの貴重な時間となりました。

講義終了後は、研修室やエントランスに並ぶEU加盟国の国旗とともに記念撮影を楽しみ、学生たちは充実した表情を見せていました。普段の講義では味わえない国際的な雰囲気と臨場感の中、多くの刺激と学びを得る機会となりました。


▲講義の様子


▲参加者による講義後の記念撮影

5 教育 今年も埼大生が考案したお弁当をスーパーマーケット店舗にて販売
― 株式会社エコスと連携した課題解決型授業 ―

本学は、株式会社エコスと連携した課題解決型授業を実施しています。今年は「埼大"Fish"tival2026 ～魚たちの夏祭りが始まる～」をテーマに、学生が5グループに分かれて魚を使ったお弁当を考案し、エコスグループのスーパーマーケット5店舗で1週間試験販売を行いました。販売数量・売上高など9項目で評価した結果、最優秀賞に選ばれた「白身とシャケのがっつりさっぱり弁当」は、エコスグループの136店舗で8月に期間限定販売されました。



6 公開講座 埼玉大学教養学部ミュージアム・カレッジ2026「小村雪岱の世界」を開催しました

本学教養学部では、隔年で埼玉県立近代美術館および埼玉県立歴史と民俗の博物館との共催でミュージアム・カレッジを開催しています。今年度は埼玉県立近代美術館との共同企画として、7月17日から8月2日まで全4回の講演を実施しました。講演では、近代美術館で開催中の企画展「密やかな美 小村雪岱のすべて」に合わせ、小村雪岱の作品の魅力をはじめ、創作に対する考え方や生涯、その時代背景などを多角的に紹介しました。全4回の講演には延べ約250名が参加し、受講者は講師の話に熱心に耳を傾けていました。



連続市民講座part17「当たり前の再発見～暮らしを支える見えない仕組み～」全5回が終了

本学と読売新聞さいたま支局が共催する連続市民講座は、今年度第17回を迎えました。本講座は、地域に開かれた大学として、本学が取り組む教育・研究の成果を市民の皆さまに分かりやすくお伝えすることを目的に毎年開催しています。今年度のテーマは「当たり前の再発見～暮らしを支える見えない仕組み～」。私たちの暮らしは、多くの見えない仕組みや誰かの支えによって成り立っています。しかし、その大切さは普段意識されることが少なく、日常の景色に溶け込んでいます。本講座では、当たり前のように感じている日常に目を向け、その仕組みをあらためて見つめ直し、理解を深めるための機会となるよう、5月から7月にかけて全5回の講座を実施しました。登壇した講師の先生方がそれぞれの専門分野の最新の研究成果を交えながら、具体的かつ分かりやすく解説し、多くの方が真剣に耳を傾けていました。


▲連続市民講座の様子

7 研究 菊原伸郎准教授の著書が話題に ― 新聞・ラジオ・イベントで広がる発信

教育学部保健体育講座の菊原伸郎准教授が、2026年4月に出版した著書『サッカーと囲碁が生きる力を育む』(大修館書店)を機に、新聞やラジオへの出演、出版記念イベントなどで研究成果や教育実践について発信しています。

同書は、菊原准教授が埼玉大学で長年にわたり実践してきたサッカーや囲碁を活用した教育をもとに、子どもの「生きる力」や非認知能力を育むことについてまとめたものです。出版後、その内容や実践に関心が寄せられ、メディアからの取材やイベントへの出演依頼が相次ぎました。

今回の著書出版をきっかけに、新聞、ラジオ、イベントと多様な場での発信を通じ、スポーツやゲームを活用した教育がもたらす可能性に、あらためて関心が寄せられています。




▲囲碁トラベラー毛塚瑛子先生と


▲三鷹囲碁将棋フェスタにて大沢摩耶先生と

8 教育・ダイバーシティ 「違い」が研究を豊かにする：ダイバーシティ科学専攻がスタート!

今年4月、本学の大学院人文社会科学研究科に、日本初となる「ダイバーシティ科学」専攻が開設され、新たな学びがスタートしました。ダイバーシティ科学専攻では、社会科学・人文科学を基盤に、教育、福祉、法、政策、そして科学技術など多領域にまたがるアプローチを通じて、すべての人の人権とウェルビーイング（幸福）が尊重される包摂的かつ公正な社会の実現を目指しています。

現在この専攻では、海外からの留学生、ビジネスや福祉、教育などの現場で経験を積んできた方など、さまざまなバックグラウンドをもつ大学院生が、それぞれの研究課題に取り組んでいます。特色のある授業のひとつ「課題研究演習」では、大学院生と専任教員が一堂に会し、一人ひとりの研究課題について全員で議論します。文理双方の専門分野や経験をもとに、さまざまな角度から質問や提案が交わされます。自分とは異なる視点に耳を傾けながら研究を深めていくことは、ダイバーシティ科学専攻の学びの大きな特徴です。


▲課題研究演習の様子

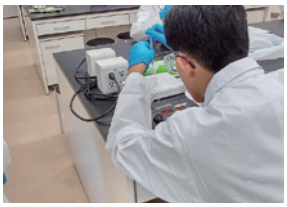
9 研究 小中高生を対象とした様々な研究活動体験を開催

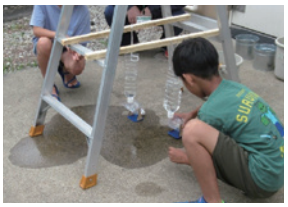
本学では、夏休み期間に小中高生を対象とした体験イベントを多数実施しました。工学部では、7月25日(土)、「工学部サイエンススクール～ 1日体験エレクトロニクス教室・1日体験化学教室～」を開催し、科学に興味を持つ高校生を対象に、工作や実験を通して科学を学ぶ機会を提供しました。

8月4日(火)には、総合技術支援センターで「夏休みものづくり体験教室」を開催しました。地域の小学生にものづくりの楽しさを体験してもらうことを目的として、技術職員が講師となり、学年に応じて3つの工作を実施しました。

8月30日(日)、イオンモール浦和美園で開催された「環境フェス～イオンモール浦和美園から広がる環境の輪～」では、社会変革研究センター脱炭素推進部門における取り組みや研究内容を紹介するとともに、小学生を対象としたワークショップ「ソーラーカーを作ろう!」を開催しました。

大学院理工学研究科では8月31日(月)、科学者の芽育成プログラム「一日大学生」を開催。小学5年生～中学生の皆さんに体験を通した専門的な学習機会を提供し、科学に関する好奇心・学習意欲・能力の成長を促し、開花させることを目指しています。


▲工学部サイエンススクール


▲夏休みものづくり体験教室


▲ソーラーカーを作ろう！


▲科学者の芽育成プログラム「一日大学生」

10 その他 メリンちゃん、ゆるバース初出場47位 キャラクターを通じ地域とのつながりを拡大

本学のマスコットキャラクター「メリンちゃん」が出場した「ゆるバース2026」の決選投票イベントが10月3日(土)、4日(日)にさいたま新都心けやきひろばで開催されました。本学では学生と職員が協力し、ブース出展や魅力をアピールするステージ企画、投票呼びかけなどを実施しました。今回のイベントには435団体がエントリー。初出場ながら11,095ptを獲得し47位と健闘しました。多くの方にメリンちゃんの応援をいただくとともに、埼玉県マスコットの「コバトン」&「さいたまっち」、さいたま市PRキャラクター「ヌゥ」、さいたまアリーナのマスコット「たまーりん」など、キャラクターを通じ様々な団体とつながりを深めることができました。

本学では、これからもメリンちゃんを通じて本学の魅力を発信するとともに、大学と地域との連携をさらに深め、地域の活性化につなげていきたいと考えています。


▲学生とパフォーマンスをするメリンちゃん


▲大学に遊びに来てくれたコバトンとさいたまっち

（記事中の役職は当日現在のものです）

11 その他

埼玉大学創立80周年記念事業特設サイトを公開

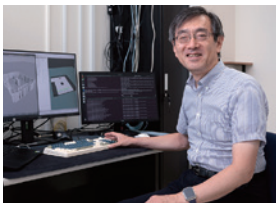
特設サイトは こちらから ▶



埼玉大学は2029年に創立80周年を迎えます。このたび、創立80周年記念事業に関する情報発信・共有のプラットフォームとして、特設サイトを公開しました。特設サイトでは、創立80周年に向けたプレイベントや各種取組、記念事業に関する最新情報を随時発信してまいります。また、学生・卒業生・地域・企業をはじめとする多様なステークホルダーとのつながりを深めながら、80周年に向けた歩みを発信していきます。サイトデザインは、創立80周年記念キャッチフレーズ「創造の一歩を共に」の想いを表現し、埼玉大学が未来へ向かって歩みを進める姿をイメージしています。

創立80周年は、これまで本学を支えてくださった多くの皆さまへの感謝を伝えるとともに、未来に向けた新たな一歩を踏み出す節目でもあります。本特設サイトを通じて、80周年に向けたさまざまな取組や情報を発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

Pick up 本学教員が手掛ける注目の研究を紹介するオンラインマガジン『Frontiers of SU Research』



ロボットの社会実装を阻む壁を乗り越える

理工学研究科　琴坂 信哉 准教授

ロボット技術は急速に進化しているものの、現場への導入は必ずしも順調に進んでいるとは言えません。理工学研究科の琴坂信哉准教授は、20年にわたりロボットの活用や動作に関する研究に取り組んできました。そんな研究の重要テーマの1つが、人と一緒に働くロボットが安全に動くための仕組みづくりです。さらに50を超える現場での支援経験を基に、技術開発だけでなく、人材育成やシステム設計の支援にも取り組んでいます。ロボットを「賢く動かす」だけでなく、「現場で使いこなす」ためには何が必要なのか。ロボットの社会実装を支える研究の最前線に迫ります。

「運動は健康によい」を行動につなげる学びとは？

教育学部　森田 哲史 准教授



「運動は健康によい」ことは、誰もが知る事実ですが、運動を生涯にわたる習慣として続けることは簡単ではありません。

教育学部の森田哲史准教授が取り組むのは、学校教育において、“体育”と“保健”を関連させた教育プログラムの研究。子ども時代の学びが生涯にわたる運動習慣を左右するという視点で、開発したプログラムの効果を科学的に検証しています。

さらに、その成果は学校での授業改善だけでなく、自治体の健康増進施策、EdTech企業による教材開発、さらには健康経営やヘルスケアサービスの設計への応用も期待されています。

オンラインマガジン『Frontiers of SU Research』の最新インタビューでは、琴坂准教授と森田准教授が語る研究の展望や社会的インパクトについてご紹介しています。ぜひご覧ください！

各記事の詳細はこちら
https://www.saitama-u.ac.jp/research/frontiers/

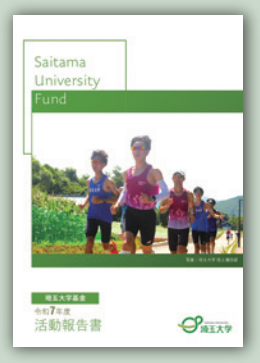
埼玉大学基金室より「埼玉大学創立80周年記念事業募金」のご案内

日頃より埼玉大学基金へのご理解とあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。埼玉大学は、皆様に支えられながら、2029年に創立80周年という大きな節目を迎えます。この節目を迎えるにあたり、キャッチフレーズとして「創造の一歩を共に」を掲げ、教育・研究環境のさらなる充実と、地域・社会への貢献、未来を担う学生への支援を推進するため、「創立80周年記念事業募金」へのご支援をお願いしております。皆さまのご理解とお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、ご寄附の活用状況はホームページにて公開しております。皆様からの多大なご支援に心より御礼申し上げます。

埼玉大学基金令和７年度活動報告
https://www.saitama-u.ac.jp/funds/report/pdf/2025.pdf
QRコード▶

今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。



埼玉大学創立80周年記念事業募金

- 機能強化に向けたイノベーション・コモンズ（共創拠点）整備事業
  - グローバル人材育成環境構築（混住型学生寮整備、賃料補助等）
  - 地域共創のための産学官連携拠点整備
- 学生支援事業
  - 障がいのある学生等への修学支援
  - 課外活動の活性化
- 記念プロジェクト事業
  - 記念式典等各種イベントの実施、埼玉大学80周年史等の編纂・刊行

詳しくはホームページをご覧下さい
https://www.saitama-u.ac.jp/funds/
埼玉大学基金 検索

◆ 埼玉大学基金へのご寄附の累計額

令和8年 9月末の状況 **802,787,888円**

うちリサイクル募金 きしゃぽん によるご寄附 **1,957,987円**

お問い合わせ先 埼玉大学基金室（総務部広報渉外課内）048(858)9330 s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp

サイダイコンシェルジュ SU NewsLetter Vol.49 2026年10月発行
編集発行／埼玉大学総務部広報渉外課 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255
TEL:048(858)3932 FAX:048(858)9057 E-mail:koho@gr.saitama-u.ac.jp

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C003343
VOC FREE